

LAN・CAFÉ

だより



May, 2025

2025 年 5 月号

豊橋語学教育研究室

ランカフェだより 5 月号をお届けします。

4 月に豊橋校舎に英語のネイティブの先生も着任なさいました。

リー・H・アレクサンダー先生です。さっそく自己紹介文を書いていただきました。ヤング先生が日本語に訳してくださいましたので、参考にしてください。

アレクサンダー先生は授業のほか、お昼のランゲージカフェをご担当です。

Nice To Meet You!

A Short Self-introduction

My name is Lee Alexander. I was born and raised in the south of England. When I was 11 years old, my family moved from the southeast to the southwest, and I spent many of my formative years in a small village, named Wrington, located among hills near Bristol. It is a peaceful place, surrounded by nature, and it holds many special memories for me.



A view of Wrington, Somerset, England

My interest in East Asian languages and cultures started when I was a teenager, first through reading novels set in various Asian countries. I went on a high school trip to China and saw the Great Wall and the Terracotta Army, which deepened my curiosity about both China and the wider region. However, I didn't come to Japan just because of my interest in the culture—I also came because I met and fell in love with a woman from Aichi during my undergraduate studies at the University of London. We're now married, and we live in Aichi with our two children and our dog.



2 Puffy, a rescue dog from Shikoku, joined our family in December 2022

When I first arrived in Japan, I was impressed by how clean the streets were compared to China. The sushi also tasted so much better than anything I had tried before! I spent a year studying Japanese at a language school in Aichi, and after getting Level 2 of the Japanese Language Proficiency Test, I applied for a job as an Assistant Language



3 The Bridge of Sighs, Oxford, England

Teacher with the Okazaki City Board of Education. Since then, I've been working in language teaching here in Aichi, except for a break when I studied for my master's degree at the University of Oxford. During that time, my children came with me to Oxford, a truly beautiful city, and they loved the experience of living in the UK.

Now, looking back on my journey—from a quiet village in England to living in Japan—I feel grateful for all the experiences that have shaped me. Teaching has allowed me to connect with people from different cultures, and I enjoy being able to contribute to education here in Japan.

日 本 語 訳

リー・H・アレクサンダーの自己紹介

私はイングランド南部で生まれ育ちました。11歳のとき、家族とともに南東部から南西部へ引っ越し、ブリストル近郊の丘に囲まれた小さな村で多感な時期を過ごしました。そこは自然に囲まれた静かな場所で、私にとって特別な思い出がたくさんあります。

東アジアの言語や文化に興味を持ち始めたのは10代の頃でした。最初はアジア各国を舞台にした小説を読むことから始まりました。その後、高校の修学旅行で中国を訪れ、万里の長城や兵馬俑を見て、中国だけでなく東アジア全体に対する関心が深まりました。しかし、日本に来た理由は文化への興味だけではありません。ロンドン大学で学んでいたときに愛知出身の女性と出会い、恋に落ちたことも大きな理由です。現在、私たちは結婚し、愛知で二人の子どもと犬と一緒に暮らしています。

初めて日本に来たとき、中国と比べて街がとても清潔であることに驚きました。また、日本の寿司はこれまで食べたどの寿司よりも美味しかったです！愛知の日本語学校で1年間日本語を学び、日本語能力試験の2級を取得した後、岡崎市教育委員会の外国語指導助手（ALT）の仕事に応募しました。それ以来、愛知で語学教育に携わってきましたが、その間、オックスフォード大学で修士号を取得するために一時的に日本を離れました。そのとき、子どもたちも一緒にオックスフォードで暮らし、イギリスでの生活をとても楽しんでいました。

こうして振り返ると、イングランドの静かな村から日本での生活に至るまで、私を形作ってきたすべての経験に感謝しています。教育に携わることで、さまざまな文化の人々とつながることができ、日本の教育に貢献できることを嬉しく思います。

（アンソニー・ヤング訳）



上海・蘇州にて

臼田真佐子（文学部）

訪中ビザも緩和され、数年振りに資料収集を中国の上海・蘇州で3月の数日間行いました。学術的なことは論文に書くことにして、それ以外の旅の思い出を記してみたいと思います。

図書館に行くのが主ですが、帰りに立ち寄ったところもあります。上海・福州路の上海書城は大型ブックセンターですが、前に来た時と違い、ブックカフェ併設となっていました。

2024年度授業で使用した中国語テキストで、上海が舞台になっているものがあり、掲載されている場所を数か所訪れました。南京西路の静安寺はずいぶん前に来た時より建物(伽藍)が増え、参拝する人も大勢でした。隣の久光デパートの地下には日本の食材や生活用品が所狭しと並べてありました。テキストの通りです。



静安寺

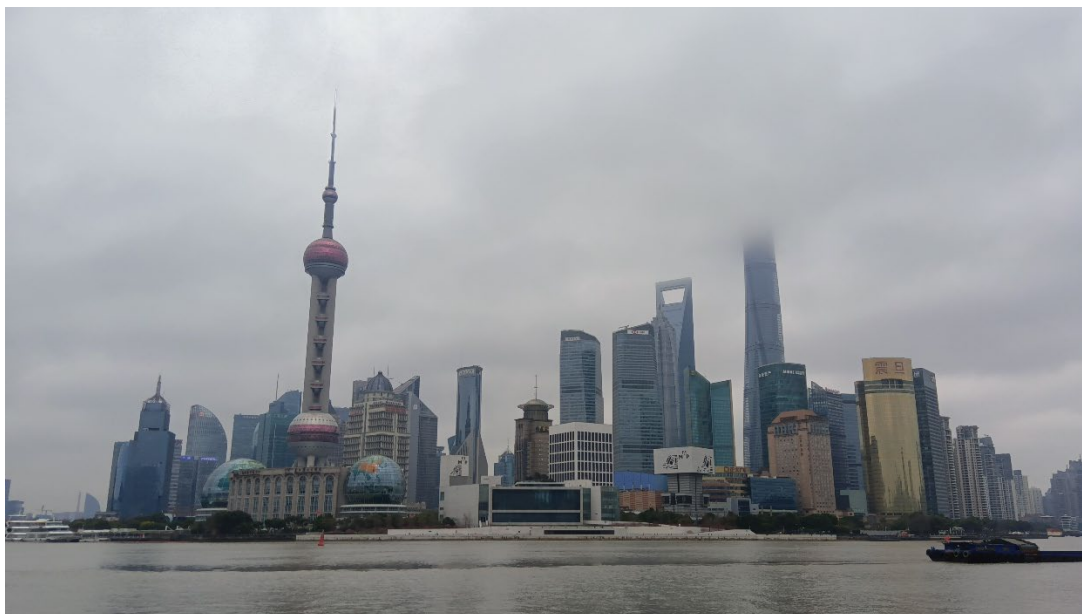


久光デパート

南京東路の東端にある和平飯店ですが、このあたりの南京東路は歩行者天国に生まれ変わっていました。黄浦江の向こうに東方明珠塔やビル群が見えるのですが、高層ビルの上の方が霧なのか雲なのか、隠れていました。

写真は他の人がスマホで写していたらスマホで写し、デジカメで写していたら同じようにする。問題なさそうな所を見極める必要はあります。

中国では電子決済が多いという話で、現金はどのくらい使えるのでしょうか。これは訪中前からの悩みの種でした。結果として現金は使えました。法律で現金が基本と決まっているそうです。普通のお店はお釣りも出ました。現金が用意されています。上海では Shanghai Pass を持っているとは地下鉄に乗る時便利でした。これはカードに人民元をチャージするものです。中国の人はスマホにアプリを入れて、それで地下鉄に乗る人が多いようでした。



バンドから眺める浦東エリア 手前は黄浦江

蘇州の地下鉄は乗るたびに切符を購入しました。電子決済ができれば便利という場面もありました。蘇州の図書館に行った時は上海からパンと水を持参してお昼に。自動販売機は現金不可で、KFC までは徒歩 10 分でちょっと遠い。スマホで注文してお昼を届けてもらうシステムもあるそうです。3 月初めの蘇州は上海よりも風が冷たく、今度来る時はマイボトルにお湯を入れて、なくなったら図書館の給湯器で補充したい。そんなふうに思いました。

もう若くはないのですが、異文化体験も何とかクリアーし、また機会があれば訪中したいと思っています。



上海発南京行き的高速鉄道

この便に乗車して 25 分で蘇州に到着



お知らせ

- ・豊橋校舎のランゲージセンターは、今年3月下旬まで大浜さんを中心に運営していましたが、4月から佐々井さんに交代となりました。受付のスタッフは山家さん、中谷さんです。
- ・「ランカフェだより」は2016年3月に4月号(創刊号)を発行し、今回で54号となり、次号で55号(GoGo)です。引き続きご愛顧ください。

ランゲージセンター@梢風館

4月のランゲージセンターの様子を写真に収めました。外国語に関する資料がいろいろあります。全部ご紹介できず残念。どうか実際にご利用ください。



雑誌 NHKの語学テキストが中心



フランス語



韓国語



ドイツ語

撮影した日は授業が始まる前で、芝生広場と哲学の森の間の通りにはクラブ活動のテントが並んでいました。豊橋校舎の新棟も完成が近づいています。ランゲージセンターの移転もそう遠くないものとなりました。

2025年 5月

LANGUAGE・CAFÉプログラム

EC (English Café) : 月火水 3時限目 **CF** (Café Français) : 火 5時限目

月	火		水	木	金
				1	2
5	6	6	7 EC	8	9
			Teacher Led Seminar  Angela Wolf		
12 EC	13 EC	13 CF	14 EC	15	16
Teacher-led seminars  Alexander Lee Harvey	Seminar2  Ashley Bartholomy	健康について  DUBERT Davy	Student-led Seminars  Angela Wolf		
19 EC	20 EC	20 CF	21 EC	22	23
Student-led seminars  Alexander Lee Harvey	Seminar2  Ashley Bartholomy	予定をする  DUBERT Davy	Student-led Seminars  Angela Wolf		
26 EC	27 EC	27 CF	28 EC	29	30
Student-led seminars  Alexander Lee Harvey	Seminar2  Ashley Bartholomy	予定をする  DUBERT Davy	Student-led Seminars  Angela Wolf		

Language Café 昼休みの部

- ◆English Café : 月・火・水・金
- ◆Café Français : 月・金
- ◆Global Café : 火 (at 6号館5階 留学生室)

※プログラムは変更することがあります。

LAN-CAFÉ だより 2025年5月号(第54号)

WEB版URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/kikanshi.html>
 2025年 4月 25日発行
 発行：愛知大学豊橋語学教育研究室
 〒441-8522豊橋市町畑町1-1
 TEL : (0532) 47-4170
 URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken>